

地域連携のお知らせ

新任医師紹介

中島 正雄 医師

出身地：岡山県倉敷市 診療科：外科 趣味：ゴルフ、テニス

抱負：50近くになっての姫路での単身赴任で戸惑うことばかりですが、できるだけ早く慣れて、地域医療と石川病院の発展に貢献できればと考えております。よろしくお祈りいたします。



Merry Christmas
回復期リハビリテーション病棟
クリスマス会
平成20年12月 4日（4階・5階）
18日（2階・3階）

回復期病棟の患者様同士や家族と親睦をはかり、クリスマス会により気分転換がはかれました。



プログラム

1. みんなで歌おう
2. ハンドベルによる演奏
3. 各階対抗ボール運びゲーム
4. 茶話会

患者様より
・楽しかった
・孫と一緒に遊べた

家族様より
・全員参加できる内容で良かった
・小さい子供も一緒に参加できて良かった
・患者個々が出来るプログラムが組まれていて感動しました



ボランティア報告

12月11日（木）14時～15時 於：東館6階

安井夫婦太鼓による演奏会を行いました。迫力ある演奏を皆さん楽しんでおられました。



安井夫婦太鼓様、ありがとうございました。

せせらぎ通信

〔第28号〕

〔2009年1月1日発行〕

〒671-0221 姫路市別所町別所2丁目150
☎(079)252-5235 石川病院 広報委員会
発行責任者 事務長 三枝孝弘

地域のために 思いやりと
信頼性の高い 治療・看護を目指す

平成21年新年挨拶

新年明けましておめでとうございます。

2009年の年頭にあたり皆様方に謹んで新春のご挨拶を申し上げます。日頃は病院運営に格別のご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

平成21年は、昨年後半からの景気後退に続き、より深刻な厳しい経済環境を覚悟しなければならないと考えております。その状況下でも本年掲げた目標に向かって、全員が一つになって果敢に挑戦すれば、乗り越えられると確信しております。



理事長 石川誠

さて、平成21年の干支は、「己・丑」、つちのと・うし、であります。俗にいう「うし年」であります。この丑年は、文字から判断して「おのれ」を正しくして、筋を通す、物事をよく整理して、筋道を正すということでもあります。このことは、何事においても、決断せず放って置くと、糸のもつれたように、何が何だか分からなくなってしまい解決できなくなることを戒めている。従って、国家であれ、病院であれ、家庭であれ、何事につけても、人の行為の規準となる

「規律」、必ず守らなければならない規範、おきて、を意味する「法則」、人の行う正しい道、道徳を意味する「道義」、と言うものを鮮明に・明確にしていくことが大事であります。要するに、「つちのと・うし」の本年は、何事に対しても、正しい筋道を通して、物事の乱れを治める、整えていく、規律・道義というものを正しく行うことによって、大いなる発展が期待できる年であります。

世の中の乱れをおさめて、正しい常態にかえすことであります。

「己を正す」精神で、己を尽くし、正々堂々と行動すべき年で、自分に厳しく、周囲の人には優しく心掛けて頂けるよう、本年も、院長を芯に昨年以上のご協力、ご活躍を期待し、関係各位の皆様方には本年度も引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



1月からの外来診察表

	内科		外科		整形		脳外		耳鼻		泌尿器	リハビリ科
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後		
受付	7~12	3~5時	7~12	3~7	7~12	3~6	2~4	予約制			9~11:30	予約制
診察	9~12	9~#	9~#	3~7	9~12	4~6	10~12	1~4	10~12:30	2~4	9:30~	
月	平野	金野	平野	内山	石川	今野	6中	立石	立石	安藤	藤田	
火	小山			岡大	今野	岡大	6時	高祖			佐地	寺本
水	平野	金野	平野	中野	平野	今野	5時	安藤	藤田		佐地	
木	高旗	金野	高旗	岡大	平野	6時	高祖	高祖			藤田	寺本
金	小山			石川	今野	平野	6時	安藤	藤田		佐地	寺本
土	日下			岡大	岡大	平野	6時	安藤	藤田		岡1・3	石川



トピックス



院長 今脇節朗

皆さん、新年明けましておめでとうございます。本年も皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。

年頭にあたり、本年の取り組み方針を表明させていただきます。
今年のスローガン、

「変える勇気、変わる努力で果たそう役割、示そう行動」

のもとに、平成21年から仕事の質を高める推進活動3カ年計画（ホップ、ステップ、ジャンプ）のホップの年に位置づけ、日常業務計画を通じ、次の5項目の体質改善に取り組みます。

{確実にPDCAを廻し仕事の質を高めよう}

- 1, 問題は何かを掴む体質を身につけ、一人ひとりの医療安全意識を高め、事故災害ゼロを目指す。
- 2, 計画を重視する体質を身につけ、トラブルや問題が起こらないよう計画に基づき、着実に日常業務をこなし、トラブル防止と、予知能力を高める。
- 3, プロセスを重視する体質を身につけ、業務を進めてきた過程の「良さ」、「悪さ」を適切に評価することを習慣化し、日々の変化に迅速に対応する。
- 4, 重点指向する体質を身につけ、今一番重要なことは何か、限られた資源と費用を使って院内目標を果たす上で、多くの問題の中から何が重要で、優先課題は何かを考え、果敢に挑戦するIJK活動に変革しよう！
- 5, 全員がシステム指向する体質を身につけ、IT技術の積極的活用と、全員が互いに有機的に協力して、医療環境の更なる改善と自己啓発の促進。

本年より訪問診療を立ち上げます。関係各位の皆様方には昨年へ続き、ご支援ご鞭撻をお願い申し上げ年頭の挨拶ならびに所信表明といたします。

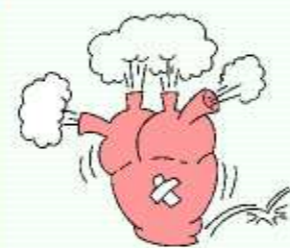
今回は、8月より当院に勤務している大城宜哲医師よりペインクリニックについて紹介いたします。

【Dr. 紹介】

麻酔科医として手術室、ICU、ペインクリニックと一通り経験してきました。その一方で、自分自身痛みが弱いので、大学院から一貫して痛みの研究を続けております。今後は石川病院でペインクリニックを中心に、リハビリテーションへの応用患者さんのQOL（生活の質）の向上などいろいろな点でお役に立てるのではないかと考えています。今後ともよろしくお願い申し上げます。



大城宜哲医師



ペインクリニックとは

ペイン(pain)とは痛みを意味し、クリニック(clinic)とは診療所を意味します。つまりペインクリニックは痛みのある病気を診療する診療科です。神経ブロック法（痛みに関わる神経を注射によって一時的または長期的に遮断する方法）を中心に薬物や手術、欧米ではリハビリテーションやソーシャルワーカーとの集学的治療も進んでいます。アメリカ政府は慢性痛による社会的経済損失が大きいとして、2001年から2010年までを「痛みの10年」に制定しています。

ここで、脳と痛みの関連について書かれた興味深い報告をご紹介します。

「痛みは脳が感じている」

存在しない腕が痛む～幻肢痛～

トムは、自分が腕を失うことになった状況のことを、鮮やかに思い出す。その日、サッカーの練習を終え、自宅に向かって車を走らせていた。そこに対向車が車線を越えて目の前にとびこんできた。車はコントロールを失って回転した。トムは運転席から投げ出され、フリーウェイの隣の製氷工場の上に落ちた。空中に投げ出されているあいだにトムは、自分の手がまだ車のなかでシートクッションを「つかんでいる」のを見た。体から切断されたその手は、ホラー映画の小道具のようだった。トムは肘のすぐ上から先の左腕を失った。十七歳で高校の卒業式まであと三ヶ月というときのことであった。

それから何週間か、腕がないことはわかっているのに、トムは肘から下が幽霊のように存在しているのを感じた。「指」を一本ずつ動かすこともできたし、「手をのばして」腕が動く範囲のものを「つかむ」こともできた。それどころか彼の幻の手は、パンチをかわしたり、弟の背中をポンとたたいたり、本物の手が無意識にすることを、何でもできるらしい。トムは左利きなので、電話が鳴るたびに、幻の左手が受話器を取ろうとする。

トムは気が変わったのではない。彼が失った腕はまだあるという感覚をもっているのは、典型的な幻肢の一例である。幻肢とは、事故や外科手術で失われた後、いつまでも患者の心の中から消えない腕や脚である。麻酔から覚めたあと腕がなくなると聞かされても、容易に信じない患者がいる。腕があることをありありと「感じる」からだ。布団をめくって、ようやく本当に腕がなくなっていることを知り、ショックを受ける。しかもこうした患者の一部は、幻の腕や手や指に、自殺を考えたくなるほどの激しい痛みを感じる。痛みは激しいだけでなく、処置不能でもある。痛みの原因も、対処の方法も全く見当がつかないのだ。

私は医師として、幻肢の痛みが深刻な問題であることを認識していた。慢性的な痛みは、関節痛の痛みや腰痛など、本当の身体部位に起こるものでも治療が難しいというのに、存在しない手足の痛みはどう対処したらいいのか。

(VS. ラマチャンドラン「脳の中の幽霊」より)

ラマチャンドラン博士は木箱の真ん中に鏡を入れミラーボックスを作成。箱に手を入れると「2本の腕が揃ったように見え、存在しない腕が自由に動かせる」という錯覚を、目から脳に送る方法を思いついた。脳が動けと指令を出すと、視覚から両手が動いているという情報が入ってきて、脳の中で起きていた混乱が一時的に回復。自由に動かせなかった幻肢が動くようになり、最終的に幻肢痛が消滅するという症例を経験した。この方法は賛否両論あるが害が少ないことから、日本でも脳梗塞などによる麻痺のリハビリにも応用されている。